

# 中部地域（山梨県・岐阜県・長野県）出土の和同開珎

西山 克己

## I はじめに

過去に長野県内における「皇朝十二銭」について調べたことがある。それを基本に中部地域（山梨県・岐阜県・長野県）の「和同開珎」について、現在確認し得る範囲でまとめてみたが、三県でのことではあるが、出土数や出土傾向に差異があることに驚かされた。

また、出来得る限りの文献にあたってはみたが、特に明治・大正・昭和初期の文献については、内容的に不明確なものがあり今回扱うか否か迷ったが、結果的には提示することとした。多くのご意見をいただければ幸いである。

## II 山梨県の和同開珎

甲斐国での皇朝十二銭は7種15銭が出土しているが、和同開珎については現在都留市上谷（都留郡）の三ノ側遺跡から1枚の出土と、北都留郡上野原町三柵の塚から1枚の出土が確認されている（文献1）。

三ノ側遺跡では第1号竪穴住居跡の覆土上面から「富壽神寶」とともに出土している。当住居跡床面からは8世紀前葉と9世紀中頃の土器が出土しているが、8世紀前葉の住居跡としている（文献2）。

三柵の塚からの出土状況についての詳細は不明である。

山梨県における和同開珎の出土傾向については、出土例が少ないことから所見は示せないが、皇朝十二銭の出土傾向として、「特別な傾向を見いだすことはできないが、初期は桂川流域に分布し、やがて一宮町から（甲府）盆地周辺、八ヶ岳山麓へと広がる傾向もあるが、点数が少ないので明確ではなし」とされている（文献1）。

## III 岐阜県の和同開珎

岐阜県では美濃国と飛騨国の二国がある。和同開珎については現在美濃国では不破郡関ヶ原町の不和開跡から3枚の出土（文献3）、不破郡垂井町宮代の四ツ辻古墳から蓋を伴う陶製蔵骨器二個体からそれぞれ5枚ずつ10枚の出土（文献3、4）、不破郡垂井町宮代字市の傾斜地にて発見された灰色素焼の二個体の蔵骨器から5枚ずつ10枚の出土（文献5）、不破郡垂井町府中字大石の蔵骨器内から和同開珎銀銭2枚の出土（文献3）、大垣市青墓町（不破郡）では、旧国分寺跡南隣の古墳が破壊された折に二個体の蔵骨器からそれぞれ5枚ずつ10枚の出土（文献3）、大垣市青野町字八反目・丸山（不破郡）の美濃国分寺跡から1枚の出土（文献6）が確認されている。また、飛騨国では飛騨市古川町岡前遺跡から1枚の出土（文献7）、高山市高根（旧大野郡

高根村)からも出土したとされているが、出土枚数は詳細は不明である(文献8)。

美濃国における出土傾向は、不和関跡や美濃国分寺跡といった公機関からの出土と、蔵骨器といった墓からの出土となる。

不和関跡では関施設である土塁の北東角から出土した土師器甕の内部から3枚出土している。1枚は一部が欠けたもの、1枚は「珎」の字が残ったもの、1枚は約12片の細片となっていたものであった。報告書では「鎮檀具」として埋納されたものと推定されている(文献3)。

美濃国分寺跡では、中世までの遺物を含む包含層である第5層からの出土であり、遺構に直接伴った出土ではない(文献6)。

蔵骨器からの出土については、古墳に埋納された蔵骨器を含め、その埋納方法などから、都での蔵骨器など墓への埋納形態に類似していることがうかがえる。

美濃国の出土傾向としては、和同開珎はいずれも不破郡内の出土であり、四ツ辻古墳は不破駅家、垂井町府中字大石の蔵骨器は美濃国府、青墓町の古墳から出土した二個体の蔵骨器と美濃国分寺跡は美濃国分寺、不和関跡は不破関の出土であり、いずれも不破郡内の奈良時代の主要な施設からの出土とされている(文献3)。

飛騨国での出土傾向については、岡前遺跡では攪乱の激しい地点での出土であり、高山市高根からの出土については詳細不明であることから、所見は述べられない。

#### IV 長野県の和同開珎

信濃国での皇朝十二銭は11種92銭以上が出土しているが(文献9)、和同開珎について、南信地域では飯田市恒川遺跡群から銀銭が1枚出土し(文献10)、伊那市下手良中原遺跡から1枚(文献11)、上伊那郡辰野町ミサモリ古墳から?枚(文献12)、茅野市乞食塚古墳から4枚(文献13)、下諏訪町一の釜遺跡から1枚(文献14)、中信地域では塩尻市吉田若宮遺跡から1枚(文献15)、同洗馬駅跡から1枚(文献16)、安曇野市宮本の神社東側から1枚(文献17)、東信地域では佐久市中道遺跡から1枚(文献18)、同芝宮遺跡群から1枚(文献19)、同聖原遺跡から1枚(文献20)、同前田遺跡から1枚(文献21)、小諸市中原遺跡群から1枚(文献22)、同郷土遺跡から1枚(文献23)、東御市桜畑遺跡から1枚(文献24)、上田市信濃国分寺跡から1枚(文献25)、同国分寺周辺遺跡から1枚(文献26)、同殿田遺跡から1枚(文献27)、北信地域では千曲市諏訪南沖遺跡から1枚(文献28)、同生仁遺跡から2枚(文献29)、合計23枚以上の出土が確認されている。

この内、竪穴住居跡内からの出土は恒川遺跡群、下手良中原遺跡、中道遺跡、聖原遺跡、前田遺跡、中原遺跡群、諏訪南沖遺跡であり、その他の遺構内としては、乞食塚古墳出土品が古墳の横穴式石室内からの出土、芝宮遺跡群出土品が大溝からの出土、桜畑遺跡出土品が土坑からの出土、信濃国分寺跡出土品が西回廊からの出土である。

竪穴住居内出土品の内、恒川遺跡群では奈良時代の44号竪穴住居跡の床面より裏返った状況で出土、下手良中原遺跡では第3号竪穴住居跡の覆土中より出土、中道遺跡では平安時代のH-1号竪穴住居跡のカマド内から出土、聖原遺跡ではH795号竪穴住居跡の覆土から出土、前田遺

跡ではH152号竪穴住居跡のカマド東脇床面直上から出土、中原遺跡群では7号竪穴住居跡床面より出土、諏訪南沖遺跡では覆土上層より出土している。

信濃国での出土傾向は、これまでも直井雅尚氏や西山克己が指摘しているように、「和同開珎」が東信地域や北信地域の千曲川流域に多く、それに続く皇朝十二銭は中信地域の松本平に多いことがわかり、さらにこの指摘に付け加えるならば、東信地域の佐久地域には「和同開珎」から「富壽神寶」までの前半6銭が集中し、北信地域の長野地域では「富壽神寶」以降のものが見られる。

さらに「富本銭」や「和同開珎銀銭」と言った初期国産銭貨が南信地域でも下伊那地域の飯田市と高森町の接点となる座光寺地域（伊那郡衙推定地周辺）から出土していることは、東園地域の律令体制整備に向けての重要な地域であったことがうかがえよう。

平川南氏他が屋代遺跡群出土木簡の研究の中で（文献30）、千曲市北域（旧更埴市）を中心とする埴科郡屋代地域の初期国府の存在を指摘されたこととこれまでの研究成果から、8世紀前半に埴科郡屋代地域→8世紀中頃から9世紀頃に小県郡（上田市域）→9世紀代以降に筑摩郡（松本市域）という国府所在地の推移が考えられ、これに皇朝十二銭の出土傾向を考え合わせると、埴科郡屋代地域や小県郡（上田市域）には「和同開珎」が集中し、筑摩郡（松本市域）には「萬年通寶」以降のものが集中することが理解できる。

## V 中部地域での和同開珎

中部地域出土の「和同開珎」は現在の所、銀銭3枚を含む51(61)枚以上であり、拓本や写真で確認しえた銅銭はすべて新和同であった。

以下、「和同開珎」の出土状況から考えられる用いられ方をみてみることにする。しかし「和同開珎」の出土状況について、墓出土資料以外で遺構に良好な状況で伴ったものは決して多くないが、竪穴住居跡や墓からの出土については、「和同開珎」に限ったことではなく、他の皇朝十二銭にも見られる状況である。

竪穴住居跡や墓と皇朝十二銭との係りを考えるにあたって、栄原永遠男氏の研究を参考に考えてみることにする。

栄原永遠男氏によれば（文献31）、平城京左京三条二坊十五坪でのSB970掘立柱建物跡身舎西北角の柱穴の礎板下面に「和同開珎」2枚が付着して出土していることや（文献32）、平城京左京四条四坊九坪の調査でのSB2390掘立柱建物跡東北角の柱穴の根巻石下から「和同開珎」1枚が出土していること（文献33）、さらには大阪府や石川県での調査例を引用されながら、京畿内やその周辺では建物の柱を立てる前に祭祀を行い、その祭の際に銭種や枚数は関係なく埋納する行為が行われ、これは地鎮のための行為であり立柱行為や立柱祭と強く係るものであると考えられている。また関東地方や東北地方での竪穴住居跡床面からの出土状況について、竪穴住居に関連する祭祀行為は、掘立柱建物跡の場合のように土中への埋納ではなく、上屋造営中もしくは完成後に上屋に置かれたものが、建物廃絶時や撤去時に床面に落ちたか、火災の際に落ちたものではないかと上棟祭や屋固祭に係るものとされている（文献31）。

このようなことから、中部地域での竪穴住居跡床面出土の「和同開珎」の使用方法についても

同様の指摘ができるものとする。また「和同開珎」に限らず、他の皇朝十二銭の使用方法についても、土坑に埋められ埋納されたと考えられる事例も見られることから、地鎮祭や上棟祭などに用いられた厭勝銭としての性格であったものと考えられる。

蔵骨器への埋納や古墳の横穴式石室への副葬品としての扱いについてはどうであろうか。

美濃国では、四ツ辻古墳内の蔵骨器内（文献 3，4）、不破郡垂井町府中字大石の蔵骨器内（文献 3）、大垣市青墓町に所在した古墳での二個体の蔵骨器内（文献 3，4）から「和同開珎」他が出土している。信濃国では「和同開珎」ではないが岡谷市榎垣外遺跡（金山東遺跡）で発見された蔵骨器内から「隆平永寶」が出土している（文献 34）。

福岡県汐井掛け墳墓群 5 号墳（文献 35）のように皇朝十二銭を置いたり並べたりし、その上に蔵骨器が置かれるような事例もある。

信濃国では、乞食塚古墳で横穴式石室に「和同開珎」他が副葬されていたが、群馬県勢多郡宮城村の白山古墳（文献 36）や山口県萩市見島ジーコンボ古墳群 56 号古墳（文献 37）などでも「和同開珎」の副葬が見られる。信濃国では、「和同開珎」に先だって、下伊那郡高森町武陵地 1 号古墳では「富本銭」が副葬されていたと考えられている（文献 38）。

これらについて柴原氏は「死者のあの世における安全と平穏を保証する呪力や、死者の眠る土地を鎮める呪力をもっと信じられ、一定の祭祀・儀礼行為とともに副葬されたとみられる」とされている（文献 31）。

墳墓における「和同開珎」他の性格については、建物で用いられた性格同様、厭勝銭としての存在であり、古墳時代における素文鏡や重圈文鏡などの小型鏡に類似した性格であったとも考えられる。

以上から、「和同開珎」あるいは「皇朝十二銭」について、中部地域では流通貨幣としては扱われておらず、「呪い銭」・「厭勝銭」としての扱われ方であり、その扱われ方は、平城京での扱われ方に影響されていたものと考えられる。

## VI おわりに

今回「和同開珎」について、勉強する機会を与えていただきました奈良文化財研究所松村恵司氏、大阪市立大学柴原永遠男氏、さらには各県内の資料についてご教示等をいただきました、佐久市教育委員会高村博文氏、同富沢一明氏、上田市教育委員会中沢徳士氏、千曲市教育委員会小野紀男氏、松本市教育委員会熊谷康治氏、伊那市教育委員会唐木芳樹氏、岐阜県教育委員会小野木学氏、大垣市教育委員会高田康成氏、山梨県教育委員会保坂和博氏、出土銭貨研究会会員藤沢高広氏に心よりお礼申し上げます。

## 〔参考文献〕

- 1 山梨県 1999 年『山梨県史』資料編 2 原始・古代 2

- 2 都留市 1986年『都留市史』資料編 地史・考古
- 3 岐阜県教育委員会 1975年『美濃不破関』I 第1次・第2次発掘調査概報
- 4 矢崎正治 1925年『不破郡史』上巻 不破郡教育会
- 5 考古学会 1912年「和同開珎の発掘」『考古学雑誌』第2巻第12号
- 6 大垣市教育委員会 2005年『美濃国分寺跡—国分寺遺跡（伽藍南面隣接地の調査）—』
- 7 岐阜県文化財保護センター 1995年『岡前遺跡』
- 8 高根村 1984年『高根村史』
- 9 西山克己 1997年「長野県内出土の皇朝十二銭」『長野県埋蔵文化財センター紀要』6  
長野県埋蔵文化財センターを参考に加筆。
- 10 座光寺バイパス遺跡調査団 1979年「飯田市座光寺恒川遺跡群発掘調査概報」『信濃』第31巻第4号  
信濃史学会
- 11 伊那市教育委員会 2001年『下手良中原・大原・松太郎窪遺跡』
- 12 宮崎 紘 1936年「信濃宮川村の一古墳—和同開珎・神功開寶等出土—」『考古学雑誌』第26巻  
第1号 考古学会
- 13 守谷昌文 1986年「乞食塚古墳」『茅野市史』上巻 茅野市
- 14 桐原 健 1998年「奈良・平安時代の道具」『長野県史』考古資料編(四)遺構・遺物 長野県史  
刊行会
- 15 大沼田三好 1985年「塩尻市広丘吉田若宮出土の備蓄銭」  
『平出遺跡考古博物館(歴史民俗資料館)紀要』2 塩尻市立博物館
- 16 鷺田信詮 1895年「信州発掘銭目録」『東京古泉会報告』3 東京古泉会
- 17 倉科正明 他 1984年「奈良・平安時代 宮本出土の古銭」『明科町史』上巻 明科町史刊行会
- 18 佐久市教育委員会中道遺跡調査団 1972年『佐久市前山中道遺跡緊急発掘調査概報』
- 19 藤原直人 他 1999年「芝宮遺跡群」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書18』—佐久市内そ  
の4・小諸市内その2—長野県埋蔵文化財センター 他
- 20 林 幸彦 他 2004年『聖原』第1分冊～第5分冊 佐久市教育委員会
- 21 林 幸彦 他 1989年『前田遺跡』I・II・III 佐久市教育委員会 他
- 22 藤原直人 他 1999年「中原遺跡群」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書18』—佐久市内そ  
の4・小諸市内その2—長野県埋蔵文化財センター 他
- 23 桜井秀雄 他 2000年「郷土遺跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』19—小諸市内3—  
長野県埋蔵文化財センター 他
- 24 川崎 保 他 1999年「桜畑遺跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』20—東部町内—  
長野県埋蔵文化財センター 他
- 25 川上 元 1982年「信濃国分寺跡」『長野県史』考古資料編全一卷(二)主要遺構(北・東信)  
長野県史刊行会
- 26 川崎 保 他 1998年「国分寺周辺遺跡群」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書』2—上田市内・  
坂城町内—長野県埋蔵文化財センター 他

- 27 尾見智志 1986年「殿田遺跡」『上田市文化財調査報告書』第27集 上田市教育委員会
- 28 佐藤信之 1991年「諏訪南沖遺跡」『平成2年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書』  
長野県更埴市教育委員会
- 29 岩崎卓也 1982年「城の内遺跡・灰塚遺跡・生仁遺跡・馬口遺跡」  
『長野県史』考古資料編全一卷(二)主要遺構(北・東信) 長野県史刊行会
- 30 平川 南 他 1996年「第五章 考察」『長野県屋代遺跡群出土木簡』長野県埋蔵文化財センター 他
- 31 栄原永遠男 1993年「第7章 日本古代銭貨と呪力」『日本古代銭貨流通史の研究』 塙書房
- 32 町田 章 他 1975年『平城京左京三条二坊奈良市庁舎建設地発掘調査報告書』  
奈良国立文化財研究所
- 33 奈良国立文化財研究所(松村恵司)編 1983年『平城京左京四条四坊九坪発掘調査報告書』  
奈良県教育委員会
- 34 戸沢充則 1973年「金山東遺跡」『岡谷市史』上巻 岡谷市
- 34 上野精志 1978年「VI 汐井掛墳墓の調査」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XX  
福岡県教育委員会
- 36 尾崎喜左雄 1958年「群馬県勢多郡白山古墳」『日本考古学年報』7 日本考古学協会
- 37 斉藤 忠 他 1965年『見島古墳群—山口県萩市見島文化財総合調査報告書別刷』 山口県教育委員会
- 38 西山克己 1999年「下伊那の馬と富本銭」『長野県埋蔵文化財センター紀要』7  
長野県埋蔵文化財センター

甲斐国



1 三ノ側遺跡

飛騨国



2 岡前遺跡



美濃国



3 不破開跡



4 美濃国分寺跡

信濃国①



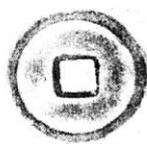
5 恒川遺跡群(銀銭)



6 下手良中原遺跡



7 乞食塚古墳



8 乞食塚古墳



9 乞食塚古墳



10 乞食塚古墳

第1図 中部地域出土の和同開珎 ①

信濃国②



11 一の釜遺跡



12 宮本の神社東側



13 中道遺跡



14 芝宮遺跡群



15 聖原遺跡



16 前田遺跡



17 中原遺跡群



18 郷土遺跡



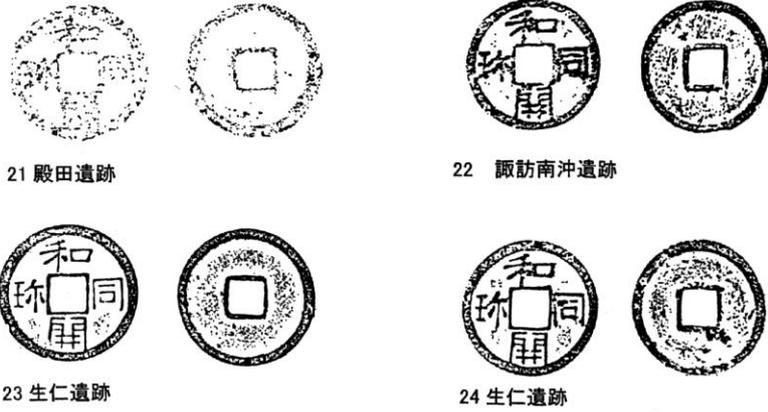
19 桜畑遺跡



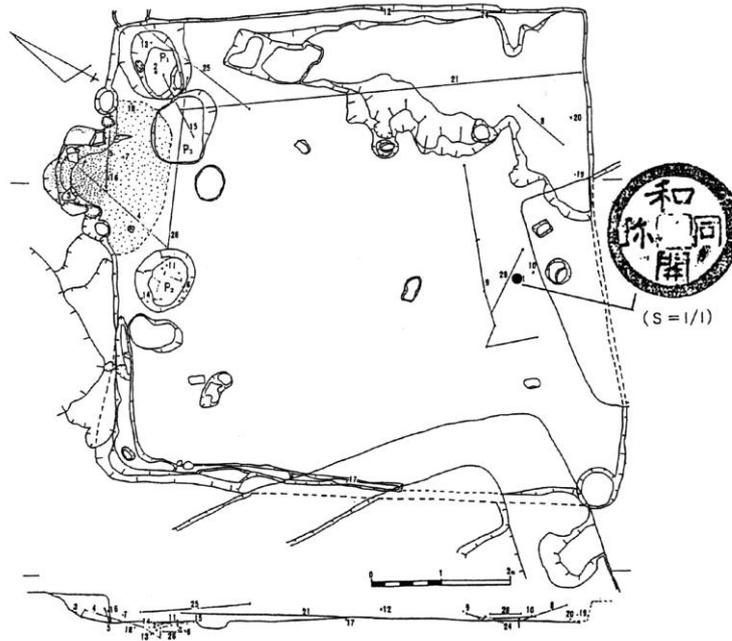
20 国分寺周辺遺跡群

第2図 中部地域出土の和同開珎 ②

信濃国③



第3図 中部地域出土の和同開珎 ③



第4図 恒川遺跡群田中・倉垣外地籍44号竪穴住居跡での和同開珎出土状況